

関西学院大学 ライティングセンター



NEWS LETTER

Vol. 06 2024.05

特集

ライティングセンター 利用者インタビュー

「レポートを書くときの困りごとは？」

「センターを利用してレポートのどこが改善した？」

「センター利用を通して学んだこと・成長したこと」

レポート課題に取りくむ過程で、学生はどのように学んでいるのか。

学生にとってライティングセンターとはどういう場所なのか。

5名の学生へのインタビューを通して、実態に迫ります！



特集： ライティングセンター 利用者 インタビュー

レポートを書く時に困っていること、
ライティングセンターに来て改善した点、
レポート執筆を通じた学びや成長など、
WRC利用学生に聞きました。



今井 咲佑 さん
文学部
総合心理科学科 2年



板鼻 萌叶 さん
人間福祉学部
社会起業学科 2年



竹内 星也 さん
経済学部 1年



井上 柚望 さん
商学部 1年



今北 結菜 さん
国際学部 2年

インタビュアー



ライティングセンター
専属スタッフ

久保 模祐野

Q リポートを書く時の困りごとは？

リポートと感想文はどう違うのか？

どこでどう学べばいいの？

自分のリポートは正しく書けているのか？

高校までと違い、大学では「リポート」が成績評価の対象として課されるようになります。しかし、リポートの書き方について、しっかり学ばないまま、なんとなくリポートを書き始めている学生が多いのではないのでしょうか。

学生みなさんは、「リポートと感想文とは違う」ということは知っているものの、では、どこで学べばいいのか？どう学べばいいのか？何が正解なのか？といった、一人では解決できない、悩みや困りごとを抱えながら、リポート課題に取り組んでいるようです。

まず、なにから始めれば
いいのかもわからなかった。

「学術的に書きなさい」
って指示があったけど、
学術的って...？

感想文とリポートの違い？
正解がわからない。

引用の仕方がわからない。
剽窃になってしまうの？

自分の文章は客観的に
書けているのか？

文字数が多い文章を
書いたことがない！

授業の先生は教えてくれない。
誰がリポートの書き方を
教えてくれるの？

Q どうしてWRCを利用したの？

ライティングセンター



今北さん

“やろうと思えば、適当に書くことはできたと思うんですけど、
わからないことばかりで、せっかくだから、ちゃんとしたいと
思って、(WRCに)行ってみようと思いました。”



竹内さん

“大学で初めてのリポート課題が出た時に、なにもわからなく
て。何から書けばいいのか、どういう風にかけばいいのか、
参考文献や引用ってどう書けばいいのか、基本的なところか
ら知りたいと思いました。”



板鼻さん

“自分なりにリポートを書いてみたけど、これでいいのか確認
が持てなくて。不安だったところを確認してもらいたくて来ま
した。”

不安や困りごとはたくさんあるものの、質を問わなければ、なんとなく見様見真似で文字数をクリアできてしまうのがリポート課題。でも、大学生になったのだから、きちんとしたリポートを書けるになりたい。せっかくだから、ちゃんと書き方を学びたい。このように、大学という新しい環境で、ステップアップを目指す向上心を、学生は抱いています。

ライティングセンターを利用したきっかけは、入学時のオリエンテーションなどで配られたチラシや、授業での教員からの紹介など様々ですが、「教えて欲しい!」を叶えてくれることを期待して、図書館B1Fの門戸を叩いてくれていました。

学生にとって、ライティングセンターは、リポート執筆の困りごとや悩みを相談できる駆け込み寺であることはもちろん、自身の成長や新しい学びの場でもありました。

Q WRCを利用してレポートのどこが改善した？



構成・アウトライン

全体の構成がきれいになった。
論理的な文章になった。



情報・アイデアの整理

言いたいことが明確になった。
必要な情報と不要な情報が整理できた。



引用・参考文献

自分の意見と引用部分を区別して書けるようになった。
引用の仕方がようになった。
参考文献リストが書けるようになった。



文章表現

主語述語や接続詞などがようになった。
一文を短く簡潔に区切れるようになった。
話し言葉が書き言葉になった。



今井さん



実験実習のレポート

先行研究を基に仮説を立て、実験・調査と考察を行う研究レポート。指定の形式を順守し、論理的に研究結果を報告することや、相手に伝わる文章を書くことに難しさを感じていた。



井上さん



講義内容の要約と自分の意見を述べる ある事例を調査し、課題と解決策を論じる

講義の内容や、調査した内容などの大量の情報を整理し、自分のレポートを論理的に構成していくことに難しさを感じていた。

“**伝えたいことがちゃんと文章にできるようになりました。**一文を短く区切れるようになったし、書く順番を組み立てて考えられるようになりました。周りにも読みやすくなったと言われました。”

“まとめることが苦手だったんですが、何度か利用するにつれて、**必要な部分、不要な部分が少しずつわかってきて、自分なりにできるようになりました。**上達を感じました。”

Q WRCの利用を通してどんな学びや成長があった？



竹内さん

“**レポートを書き上げるまでの過程がわかった**ので、学んだことを他のレポートでも活かしています。文字数の多いレポート課題でも、そんなに苦労せず書けるようになりました。”



今北さん

“レポートを書くにあたって、構成を作るとか、参考文献をきちんと書くとか、知識や技術の面でも学びはあったんですが、それ以前に**課題に向き合う姿勢が変わりました。**苦手意識も薄れたし、自分のレポートがめっちゃいい気がする、みたいな感覚が嬉しかったです。”



板鼻さん

“授業の内容や調べたことを整理して、**自分の考えを深めることは面白い、というところが学べた**ので、レポートでも**もっとチャレンジしようと思うようになりました。**”

ライティングセンターの支援と レポート執筆を通した学修

WRCでは、セッション開始前に課題内容や困りごとをアンケートで収集した上で、担当の先生方の授業方針を尊重したサポートを心がけています。それと同時に、「紙を直すのではなく、人を育てる」ことを目指し、対話を通して、学生自身が抱える課題を解決できるように努めています。1回のセッションは45分という限られた時間です。その中で、利用者が次は自分のできるようになるために、一つ一つアドバイスを積み重ねています。

学生たちは、新しいレポート課題が出る度に、WRCで教えてもらったことや学んだことを思い出し、自分なりにやってみる、というプロセスを経て、少しずつ「自立した書き手」になっていっています。その過程で学んだことは、レポートという文章を超えて、日常生活にも反映されていました。

「相手にわかりやすく伝えるという意識」、「新しい知識を得ることの楽しさ」、「多様な視点で情報を見つめること」など、レポート執筆を通した学修の成果は、知識を得ることだけでなく、より汎用的な形で学生の力になっていることがわかりました。

今回インタビューを行った5名は、WRCを長期的なスパンで複数回利用した学生ですが、書くという行為に向き合うことは確実に学生の力になります。基礎演習や、ゼミなどでライティングに苦労されている学生がいましたら、是非WRCの利用をご案内ください。

また、WRCは、一対一の対面支援だけでなく、ライティング科目の開講、授業への出張講座、オンデマンド型教材の開発など、様々な形で、学生の「書く力」の養成を目指したサポートを行っています。レポートや論文執筆に関するお悩みやお困りごとがございましたら、是非一度WRCまでご相談ください。



WRCチューターの 良いところ 教えてください！

真摯に向き合ってくれて、
よく話を聞いてくれる。

自分の意見や考えを
尊重して、アドバイスをくれる

アドバイスや、コメントを書いたものを
いつもお土産に持たせてくれる。

優しい！リラックスできる。

色々な研究科の院生がいるので
多様な視点でアドバイスをもらえる。

自分のできるようになるように
やり方や過程を教えてくれる。

納得して理解するまで、
根気強く話をしてくれる。

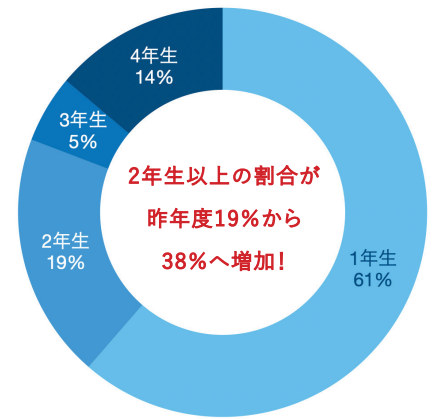
家に帰った後なにをすればいいか
明確にしてくれる。

2023年度

ライティングセンター利用動向

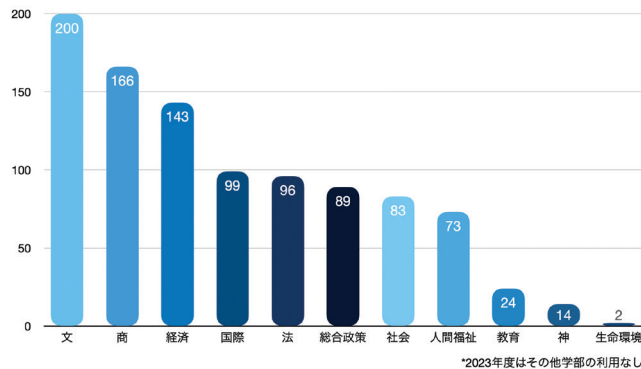
・利用数

2022年度	春学期	544件	秋学期	268件	合計	812件
2023年度	春学期	579件	秋学期	412件	合計	991件（昨対比122%）



・学年・学部別利用状況

2023年度 学部別利用数



セッション後利用者アンケート結果（回答者数:820 回答率:83%）

質問項目

・今回のセッションに満足しましたか？	4.88
・セッションを担当した指導員は、初めに決めた目標通りにセッションを進めてくれましたか？	4.90
・セッション後にやるべきことは明確になりましたか？	4.90

2021年度の開室から3年間が経過しましたが、文系の学生を中心に、全体の利用者数は増加を続けています。特に、2年生以上の割合が年々増えてきています。2・3年生は、初年次よりも文字数の多いレポートでの利用が見られました。4年生は卒論に関する相談利用が中心で、複数回利用する学生が多くいました。また、利用後のアンケートの結果からも、高い満足度を維持できていることが示されています。



2023年度

「高等教育推進センター
Best Contribution賞」
を受賞しました

高等教育推進センターが、本学の教育力向上に貢献した個人・団体を顕彰するBest Contribution賞を受賞しました。

ライティング科目や対面セッションにおける、学生の高い満足度や、多様な取り組み・工夫を評価していただきました。

授業への「出張講座」受け付け中！

出張講座の内容：レポート執筆の基礎（パラグラフライティング）に関する講座20分
＋センター紹介10分

実施形態：1)授業にセンタースタッフが出向いての実施
2)センター作成のオンデマンド教材を利用した実施

出張講座の実施をご希望の先生は、1)対象者や人数、2)実施希望時期を記載の上、ページ下部の連絡先までご相談ください。

<出張講座ご利用の先生からのコメント>

中島定彦先生
文学部 総合心理科学科 1年 「人文演習II」 担当

学生からも好評でした。同演習を担当する他の教員や、学生からも同様の講座を望む声がありました。次年度も同様の内容でお願いしたいと思います。

ライティング個別支援の利用方法

1. 公式LINE/kwic/webから予約フォームに移動できます。
2. 予約フォームで、希望の時間と形態を選べます。
(1セッション45分、対面かオンラインでの実施)
3. 予約完了後、相談内容や見てほしいレポートなどを送信します。

*予約枠に空きがある場合は、予約なしの飛び込み利用も可能です。

ライティングセンター
予約フォーム



お問い合わせ

教務機構ライティングセンター

(平日9:00-17:00)

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館 B1F

TEL : 0798-54-7459

e-mail: writingcenter@kwansei.ac.jp